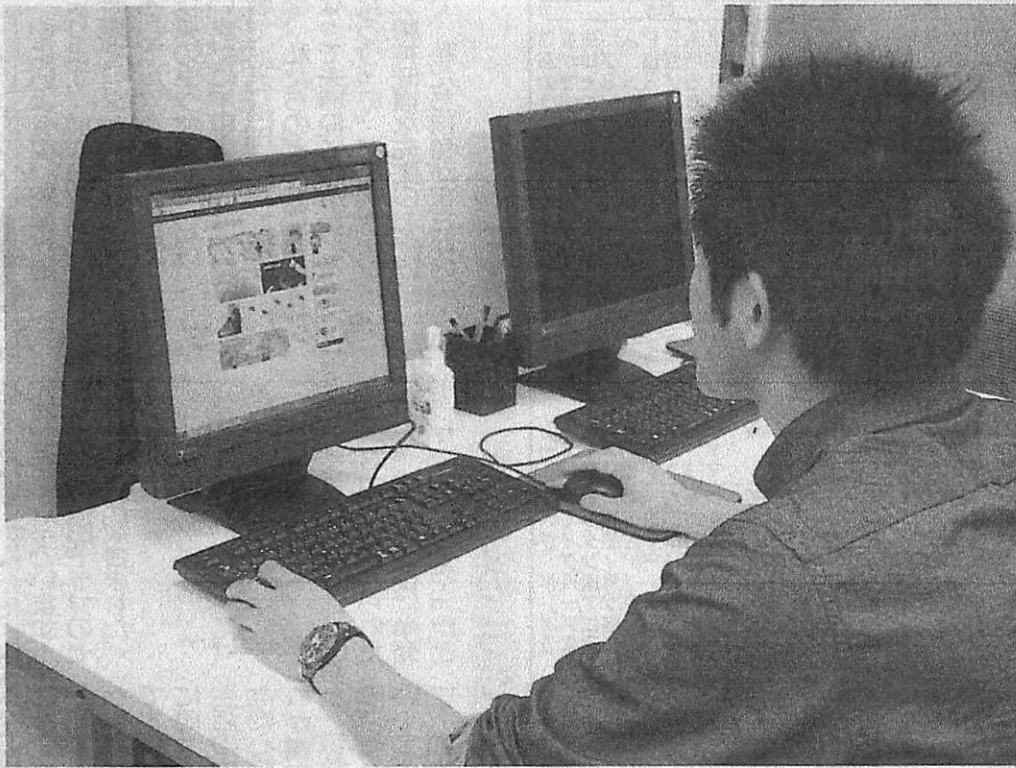


「シェア傘」ネット支援

引きこもりの若者の自立を支援しようと、傘のレンタル事業「シェア・アンブレラ」が富士山周辺で始まる。本格的な就労前のステップアップとして、就職失敗などを経た若者たちが5月の事業開始に向け、ホームページ（HP）作成など準備作業に励んでいる。参加者は「協力して働く大切さ、人間関係作りなどを学ばたい」と意気込む。

【片平知宏】



HP作成 富士山周辺で来月事業開始 本格的就労前のステップに

「県キャリアアコンサ（同市）などの協力店舗に傘を設置。1本1000円で傘を貸し出し、返却時に500円を返す仕組みだ。協力店舗の情報は専用HP上に掲載し、観光ともリンクさせる。これまでに男女5人の若者を雇用。協力店舗の取材やHP作成などに携わっているほか、返却された傘の清掃や修理も行う予定。

富士山麓は天候が変わりやすく、観光客らが傘を急に必要とすることも多い。環境保全の観点もあり、使い捨てでなくレンタルの仕組みを考案した。

「道の駅 富士吉田」撮影やHPの作成作業



レンタルに使う傘は外国からの観光客を意識して和

を行って、互いに話し合いながら、紹介文に地図を付け、感想を添えるなど工夫も凝らした。

同市の男性（24）は「最初は大変と思ったが、仲間と責任をもって仕事できたと思う」。専門学校を卒業後、就職に失敗して数年間家に引きこもっていたといい、初めてもらう給料に「何に使おうか1週間近く悩んだ」と笑顔も見せる。

2013年版の「子ども・若者白書」によると、若年無業者（ニート）は15〜34歳の2・3割いるとされ、県内では約4000人と推計される。県キャリアアコンサルディング協会の宇佐美康司理事は「すぐに会社勤めはできなくても、社会に貢献し、認められれば社会に出る自信が付く。私たちは雨を晴れにはできないが、傘を差し掛けることはできる。地域の支援が広がってほしい」と話し、協力企業などを募っている。

問い合わせは「べんない若者サポートステーション」（055